



“原発・震災…。 「いちばんつらいときに きてくれた」

福島県議選で共産党躍進

●「今回だけは共産党に入れてしまった。自民も民主もあてにできない」。ずっと自民党を応援してきたタイヤ販売業の男性(64)は初めて、家族と一緒に長谷部さんに投票しました。

●1カ月で8700人の署名を集めた「放射能から子どもを守るいわきママの会」代表の菅波好恵さん(29)は、「…共産党は“子どもたちを守りたい”というママたちの願いを届けるためにがんばり、一緒に行動してくれた。今、一番頼りになる政党だと思います」。

●漁業関係で働く女性は「自分たちは30年間ずっと自民党を支持してきた。いざとなったら誰が一番漁師に力を貸してくれるかわかった」と党候補への支持を

日本共産党は、20日投開票の福島県議選で、改選前の3議席から5議席に伸び、12年ぶりに代表質問ができる「交渉会派」に。写真は、初登庁する(前列右から)宮川えみ子、神山悦子、宮本しづえ、(後列右から)阿部裕美子、長谷部淳の各議員

表明し、郵送で支持カード45人分を送ってくる人、79人の支持を広げた人など、漁業関係者の間に大きな変化が生まれました。

●党が選挙で公約した「18歳までの医療費無料化」について、佐藤雄平知事が選挙最終日に、18歳以下の福島県民の医療費無料化を政府に求めるという動きがありました。24日には、野田首相が知事に「検討」を表明。選挙中の党の主張が、はやくも政治を動かし始めています。

しんぶん赤旗をお読み下さい。お申し込みは、お近くの党事務所または党員か、右記まで。

購読申込書	○印をおつけください	●日刊3400円	●日曜版800円
お名前	住所		

発行 ●日本共産党中央委員会
〒151-8586
東京都渋谷区千駄ヶ谷4-26-7
☎03-3403-6111(大代表)
FAX03-5474-8358

原発問題

「赤旗」記事・資料集

福島第一原発事故は、福島の自然豊かな大地をむしばみ、県民に耐えがたい苦痛をあたえています。放出された放射能は、日本中を不安に陥れています。

「東電と国は全面賠償を」「一刻もはやく除染を」「子どもたちへの影響は」「原発はなくしてほしい」—この問題をいっしょに考える資料を、「しんぶん赤旗」記事からご紹介します。

しんぶん赤旗

“原発の闇”を白日のもとに

九電や北電の“やらせメール”。1基5000億円ものビッグビジネスに群がる原発利益共同体、アメリカの巧妙なやり方、マスコミが総力をあげてつくりあげた「安全神話」—眞実をどこまでもあきらかにしようとする「しんぶん赤旗」は、「赤旗グッジョブ」とインターネットでも話題です。



「しんぶん赤旗」連載が一冊の本に。定価1260円

原発“埋蔵金”で 賠償・除染を —志位提案に首相も「検討」

原子力発電所の使用済み核燃料＝“核ゴミ”を「再処理」する危険な事業などに今後約19兆円もの積立金が。この“埋蔵金”は原発の賠償や除染、廃炉の「基金」とすべきだ。志位和夫・日本共産党委員長が野田佳彦首相との党首会談（7日）で提起し、首相も検討を約束しました。マスコミも注目したその内容は—。

この“埋蔵金”は、電力会社が原発と核燃料サイクル計画を進めるため、「使用済み核燃料再処理等積立金」などとしてため込んでいます。3つの積立金・引当金で現在4.8兆円。今後約19兆円にも—。

核燃料サイクル計画は、使用済み核燃料から、猛毒のプルトニウムと、ウランを回収

原発“埋蔵金”4.8兆円→こんご約19兆円にも

使用済み核燃料再処理等積立金……………2兆3574億円
高レベル放射性廃棄物最終処分積立金………8375億円
原子力発電施設解体引当金……………1兆5931億円

原発利益共同体にも応分の負担を

原子炉メーカー、ゼネコン、銀行など約100社のためこみ金は80兆円にも



自然エネルギーの活用を

発電能力99%以上未活用



活用可能な自然エネルギー量は、原発を含む全国の発電能力（設備容量）の約10倍—。こんな可能性が、4月に環境省が発表した「再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査（2010年）」で示されています。同調査によると自然エネルギーの「導入ポテンシャル」は20億kWです。

ところが、日本の自然エネルギー発電の導入量は1490万kW。導入ポтенシャルのわずか0.7%しか活用されていません。04年ま

で導入量で日本が世界一だった太陽光発電でも、ドイツ、スペインに大きく水を開けられています。

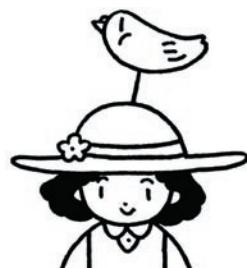
…自然エネルギーの普及には何が求められるでしょうか。▶自然エネルギーを抑えつける従来の政策を大転換する▶高い導入目標を持つ▶8月に国会で成立した電力固定価格買い取り制度を充実させる—などの具体的措置が必要です。

自然エネルギーの活用可能性と現在の導入量

単位：キロワット

		活用可能な量 (導入ポтенシャル)	2009年度の導入量 (設備容量)
太陽光	公共系建築物	2315万	太陽光：活用可能な量は住宅用を除く
	発電所・工場など	2896万	
	低・未利用地	2735万	
	耕作放棄地	6983万	
	小計	1億4929万	263万
風力	陸上	2億8294万	219万
	洋上	15億7262万	
	小計	18億5556万	
水	中小水力発電	1444万	995万
地	地熱発電	1420万	53万
	合計	20億3349万	1490万

出典：環境省



東電、全面賠償を確約

—あんぽ柿農家100人迫る(福島・伊達市)

福島県北農民連(大橋芳啓会長)は24日、伊達市保原町中央公民館で、加工などが自肅となつたあんぽ柿の全面賠償を求めて東京電力と直接交渉をしました。…東電は、あんぽ柿にかぎって異例のスピードで12月20日ごろまでに支

払うこと、損害量は過去最高数量で支払うこと、廃棄処分費用についても賠償することなど全面賠償を確約しました。

「しんぶん赤旗」2011年10月25日付

福島県伊達市、桑折町、国見町の3市町で果樹除染

—農民連の調査が行政動かす

実施面積は3市町全果樹園の2200㌶。生産者に時給約1500円程度の賃金を支払い、3人体制で190班を編成。のべ3万人を動員して取

り組みます。除染に必要な費用は国や県の補助金を活用し、生産者の負担はありません。

「しんぶん赤旗」2011年11月11日付

東京都が店頭食品の放射能検査

—都議団の要求みのる

都福祉保健局によると、都健康安全研究センターが、都内小売店に流通している農産物、水産物、食肉、鶏卵や乳製品などの加工食品を対象に、2011年度末まで毎週20～30検体を検査。都が購入したNaI(ヨウ化ナトリウム)シンチレー

ーションスペクトロメーター4台で検査し、1㌧あたり50ベクレルを超えたものはゲルマニウム半導体検出器2台で再検査します。

「しんぶん赤旗」2011年11月8日付

千葉県柏市が除染費に17億円—市民の運動がうごかす

1万人を超える署名を提出した母親たちの運動、日本共産党市議団の独自測定や議会での取り組み、繰り返しの申し入れなどが柏市を動かしています。市農政課が導入した農産物の放射能

測定器に加え、消費生活センターでも測定器を購入し、市民の要望に応えていく方針です。

「しんぶん赤旗」2011年11月22日付

学校給食の放射能測定器

—愛知県も補助対象に

保護者から強い要望が出ている学校給食食材の放射能検査について、測定器の購入補助が愛知県をはじめ全国の自治体でも受けられるよう調整していることが10日まで分かりました。

日本共産党愛知県委員会が文部科学省と交渉して回答を引き出しました。

「しんぶん赤旗」2011年11月11日付

「除染目標責任果たせ」「食品規制値を厳しく」

—高橋ちづ子衆院議員が 政府にせまる



高橋氏は、除染について文部科学省の審議会が年1㍉シーベルトは“長期的”にめざす放射線量とし、5㍉シーベルトなどの中間的な目標をおくとしたことや、IAEA(国際原子力機関)が「過剰な対応を避ける」などと助言をしたことを批判。…中川正春文科相は、「ゆらぐことがあってはいけない。1㍉以下にもっていくのが目標」と答いました。

…高橋氏はまた、食品の暫定規制値について思い切って厳しくすべきだと要求。すでに、生産者の努力で実際の線量が下がっていることを示して、小宮山洋子厚労相に迫りました。小宮山厚労相は「現在は緊急時のもの。当然今より厳しくなる」と明言するとともに、「子どもへの配慮は議論していく」と答えました。

自主避難の人にも、現地でくらす人にも、 ひとしく万全の対策を

—共産党が中央委員会として要求

被災3県のなかでも福島県の復興には特別の困難さがあります。いまなお避難者は15万人を超え、5万8千人は福島県を離れて避難しています。存続の危機にさらされている自治体もあります。わが党は、自主避難も含

めて避難された人々と、現地で暮らし続けている人々の双方に対して、生活と権利、健康を守るために万全の対策を等しくとることを、政府に強く要求します(2011年12月3・4日 第4回中央委員会総会)。

自主避難した住民への賠償額は一律8万円、18歳以下の子どもと妊婦については40万円—原子力損害賠償紛争審査会

も、自主避難者への賠償を認めました。被災地からは「これで終わりにするつもりか」の声も。さらに万全の対策がもとめられます。

原発ゼロ、除染・賠償、再稼働中止

国民のみなさんと
力をあわせて

「さようなら原発」に6万人

●大江健三郎さんら著名9氏がよびかけた9・19集会



「6万人が集まりました」と主催者が報告すると、どよめきが起きました。同公園にこれだけの人が集まるのは数十年ぶりです。

この日の集会は、新規原発計画の中止、既存原発の計画的廃止などを求めるもので、全労連、全労協、連合系、中立系の労働組合、民医連などの民主・市民団体や多数の個人が全国から参加しました。午後1時半の開会より1時間以上も早くから、最寄りのJR千駄ヶ谷駅から会場に向かう長い列ができました。「原発いらない」のゼッケンを身につけた子ども連れの母親など、女性の姿が目立ちました。

志位氏は主催者側の人らに「盛況ですね」「まずは原発の再稼働を止めたいですね」と声をかけるとともに、本部スタッフと握手。舞台の付近で一参加者として呼びかけ人らの発言に拍手を送りました。

「しんぶん赤旗」2011年9月20日付

「なくせ! 原発 安心して住み続けられる福島を!」

●福島集会1万人こす



12人の集会およびかけ人を代表して早川篤雄氏(楢葉町・住職)と片岡輝美氏(会津若松市・会津放射能情報センター代表)があいさつ。

福島県農協中央会会長の庄條徳一氏、浪江町長の馬場有氏、飯館村長の菅野典雄氏、福島県前知事の佐藤栄佐久氏があいついで登壇。発言のたびに拍手、「そうだ」の掛け声がとびました。馬場町長は、「本当に、悲しいです。悔しい。浪江町民2万1000人が県内や全国に避難している。そんな状況をつくったのは誰だ! 東京電力です。国策として進めてきた国にも責任があります」と訴えました。

日本共産党の志位和夫委員長があいさつし、「この集会の大きな成功を力に、さらに世論と運動をひろげ、原発にしがみつく勢力を追い詰め、包囲しましょう。安心して住み続けられる福島、原発ゼロの日本をつくるために、頑張りましょう」と呼びかけました。

「しんぶん赤旗」2011年10月31日付

草の根から、多彩ではばひろいアクション

「赤旗」記事の見出しから(10～11月の一部)

- 10月1日 ●高山から原発ゼロへ／市民団体が学習会／岐阜
- 10月1日 ●原発ゼロへいま言いたい／「脱原発ネットワーク九州」代表深江守さん
- 10月2日 ●原発いらない／新婦人が署名訴え／シール投票で対話／群馬
- 10月2日 ●横須賀に浮かぶ原発米原子力空母いらない／震災で危険実感／4500人、集会で撤退求める
- 10月16日 ●子らのため原発ゼロ／宮城県民が集会、デモ
- 10月17日 ●脱原発は夢じゃない／制服向上委員会リーダー小川杏奈さん、会長橋本美香さん
- 10月21日 ●「原発ゼロ」長崎から発信／大学前で共産党・民青同盟訴え
- 11月4日 ●「原発は危険」／富山民医連／高校生も署名
- 11月4日 ●各地でパレードやシール投票／原発ゼロ実現しよう／横浜・港北区／千葉・若葉区
- 11月5日 ●原発のない北海道を／宣伝とデモに90人／札幌・豊平
- 11月6日 ●原発ゼロへ集会／ジャーナリスト志葉玲さんも発言／兵庫・西宮
- 11月12日 ●再稼働中止、原発いらぬ／人間の鎖、経産省を包囲
- 11月13日 ●原発ゼロ・自然エネへ転換を／避難者の体験聞く／岡山で「県民アクション」
- 11月16日 ●TPPノー／原発ゼロに／岩手県民大集会に500人
- 11月17日 ●原発ゼロ・TPP阻止／名古屋でキャンドルパレード
- 11月26日 ●原発さよならデモ @ 川口／ツイッター呼びかけ、飛び入りも／埼玉
- 11月30日 ●長岡市民ネットを結成／みんなの力集めよう／新潟
- 11月30日 ●さよなら原発集会／苫小牧

「浜岡原発は永久停止・ 廃炉にせよ」

●“人間の鎖”4000人が



原発をとりかこむ (11月26日)

「九州・沖縄・韓国に住む 市民でつくるさよなら原発!」

●福岡1万5000人集会 (11月13日)

